

鉄鋼概況

高炉企業 2014年春季交渉で賃金改善回答

鉄鋼エコノミスト 左近司 忠政

1月末の普通鋼鋼材国内在庫（メーカー・問屋段階）は、前月末比2.1%増、在庫率は前月末比2.2ポイント低下し136.4%となった。2月の国内粗鋼生産量は前年同月比1.4%増と6カ月連続で前年同月実績を上回った。3月が2月と同水準生産となれば2013年度は1億1千万トンを上回る見通しである。2月の輸出（全鉄鋼）は、タイの混乱や国内需要の好調から高炉メーカーが輸出を抑制したことなどから、前年同月比11.6%減で6カ月連続の減少となった。東京電力は福島原子力発電所1~4号機に滞留水貯留タンクを増設する計画を策定し、2013年度から2015年度末までに貯水量を倍増し、そのために1,000トン規模のタンクを建設する。タンクに使用される鋼材は10万トンを超えるものと推計される。2014年の春季交渉で高炉メーカー4社はいずれも基本賃金改善への投入財源として2年分で計2,000円を回答し、基本賃金改善では新日鉄住金、JFE、日新が各年度で1,000円を投入、神鋼は2015年度に2,000円の賃上げを実施する。2月の世界（65カ国）粗鋼生産量は前年同月比0.6%増の1億2,499万トンで、中国が同0.4%増と微増に止まったことなどで小幅な増加に止まった。

※※

◆2月粗鋼生産、6カ月連続で前年増

鉄鋼連盟が発表した1月末の普通鋼鋼材国内在庫（メーカー・問屋段階）は、前月末比12万1,000トン、2.1%増の576万7,000トンとなり、2カ月連続の増となった。出荷が前月比約4%増加した結果、在庫率は前月末比2.2ポイント低下し136.4%となった。一方、1月末の普通鋼鋼材流通在庫は、鉄連が行なった全国市中鋼材数量調査によると、前月末比6万6,000トン、2.5%増の275万5,000トンで3カ月連続の増となった。1月の販売量は、前年同月比6.9%増の265万トンと7カ月連続で前年比増となったが、前月比では0.3%減となった結果、在庫率では前月比2.8ポイント上昇して104.0%となり、2カ月連続して100%を上回った。

主要鋼材の在庫状況をみると、薄板3品（熱延・冷延・表面処理鋼板）の1月末国内在庫（メーカー・問屋・コイルセンターの合計）は、前月末比15万9,000トン、4.0%増の409万2,000トンと2カ月連続の増となり、2012年10月の407万トン以来15カ月ぶりの400万トン台となった。要因としては、①冬休みを挟んだ季節的な在庫増加パターン、②市況分野での荷動きの一服感、③自動車生産増を受けた国内向け薄板生産増、が挙げられる。要因の中で、1月の国内向け薄板生産量は193万トンと過去1年間で最も高い水準となっている（過去1年間は180~185万トンのレベルで推移）。一方で、在庫率は前月の2.12カ月から2.11カ月とほぼ横這いであった。

主要建材製品であるH形鋼の2月末流通在庫は、新日鉄住金の建材特約店組織である「ときわ会」のまとめによると、前月末比1万9,800トン、9.9%増の21万9,500トンと2012年4月以来、1年10カ月ぶりの20万トン台に増加した。在庫増は3カ月連続で、在庫率

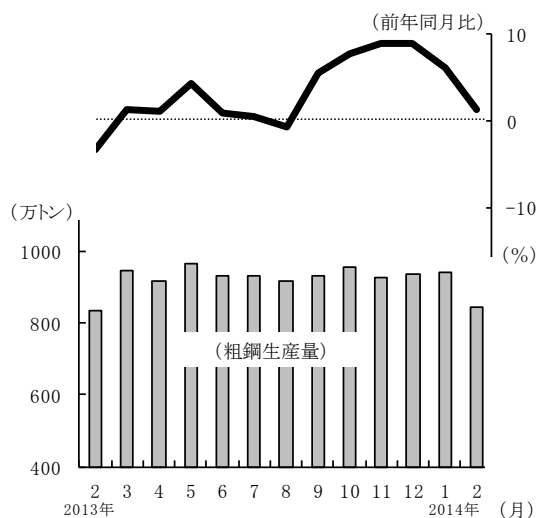
は2.67カ月と2カ月連続の2カ月台と高水準が続いている。在庫率が2.6カ月を超えるのは2年8カ月ぶりで危険水域とされた前月を大幅に上回った。出庫量が関東地区で大雪の影響で落ち込んだうえ、加工後期のずれもあったことから前月比で減少した。一方、入庫については、流通の在庫補充意欲やロール遅れの解消があったことから出庫規模に比して高水準だった。

鉄鋼連盟がまとめた2月の国内粗鋼生産量は、建築・土木関連を中心に鋼材需要が好調に推移した結果、前年同月比1.4%増の844万トンとなり、6カ月連続で前年同月実績を上回った。2月の1日当たりの生産量は30万1,000トンで、前月に比して0.6%減少したものの引き続き高水準を維持した。2月の炉別生産は、転炉鋼が前年同月比0.5%増の641万3,000トン、電炉鋼が同4.1%増の202万8,000トンで、それぞれ6カ月、7カ月連続の増加となった。鋼種別では、普通鋼が同0.5%増の653万7,000トン、特殊鋼が4.7%増の190万3,000トンで特殊鋼の好調が続いている。2013年度のこれまでの累計生産量は1億177万トンで前年同期比4%増となり、3月が2月と同水準生産となった場合、2013年度は1億1千万トンを上回る見通しである。

財務省が発表した2月の鉄鋼貿易統計によると、輸出（全鉄鋼）は前年同月比11.6%減の318万5,000トンで6カ月連続の減少となった。タイの混乱、新興国の景気減速の中、国内需要の好調から高炉メーカーが輸出を抑制したことが影響した。一方、全鉄鋼輸入は同49.7%増の73万6,700トンとなった。4カ月連続で前年同月を上回り、しかも4カ月連続して70万トンを超えている。円安・ウオン高にも関わらず、韓国ミルの能力増強を背景に輸入増が続いている。

輸出の主要な国・地域別内訳は、アジアが14.6%減の242万9,000トンで、このうち中国は3.3%増の45万2,000トン、NIE'sは15.2%減の88万7,000トン、ASEANが18.5%減の94万2,000トンであった。米国は6.8%増の20万5,000トン、中東が15.7%減の10万5,000トンだった。一方、輸入の国・地域別内訳は、アジアが47.0%増の60万9,500トンで、このうち中国は82.1%増の13万1,200トン、NIE'sが39.4%増の45万4,000トン、ASEANが26.3%増の9,900トンであった。ロシアは2.8倍の2万2,500トン、EUが21.2%減の8,400トンであった。

図－1 国内粗鋼生産の月次推移



◆福島原発、タンク増設で厚板使用増

東京電力は2013年10月末に、福島原子力発電所1～4号機に滞留水貯留タンクを増設す

る計画を策定した。それによると、2013年度から2015年度末までに貯水量は約80万m²に倍増し、そのために1,000トン規模のタンクを建設する。内訳は、リプレース用として約290基、新規に約310基となっている。設置されるタンクは鋼製の円筒型で、淡水受タンク、濃縮塩水受タンク、濃縮廃液貯水槽、処理水貯槽に分類される。従来ボルト締めしたタンク接合部のパッキンから汚染水漏れが発生しており、今回の貯留水タンクは溶接を施して設置される。現地施工を考慮して、プレファブ方式で先に部材を組み立て加工し、現地で最終組み立てを行い、施工する形式が採用される。部材の組み立て加工には造船工場の船台やドックなどが活用され、ダブルハル構造が採用される。タンクに使用される鋼材は、大半が厚板でリプレース分、新設分併せて10万トンを超えるものと推計される。

◆高炉企業、賃金改善で回答

2014年の春季交渉で2月13日、新日鉄住金、JFEスチール、神戸製鋼所、日新製鋼の高炉メーカー4社は労働組合に回答した。労働組合は2014年度、2015年度の基本賃金の引上げ額として各々一人当たり3,500円を要求していたが、4社はいずれも基本賃金改善への投入財源として2年分で計2,000円を回答した。基本賃金改善では、新日鉄住金、JFE、日新が各年度で1,000円を投入、神鋼は2015年度に2,000円の賃上げを実施する。財源の配分は新日鉄住金が2014年度、15年度ともに基本賃金のうち職能給に投入、JFEは2014年度で基本給・年齢加給部分に一律1,000円、2015年度に職能給を中心に投入する。日新は職能給に投入し、神鋼は今後協議するとしている。高炉メーカーによる基本給の増額は2000年度以来14年ぶりとなる。

一時金については、新日鉄住金、JFEは業績連動方式で決めるが、業績回復に伴い2014年度の一時金は大幅な増額となる公算が強い。神鋼は135万円を回答したが、2013年度の89万円に対して約1.5倍の水準で過去最大の引き上げ幅となる。また、組合側が要求していた年間所定労働時間の短縮については、企業側は常昼勤務者の休日を1日増やすなどの提案を行なった。この結果、年間所定労働時間は1,908時間に短縮され、組合側が求めている1,800時間台の実現に向け一歩前進する。

◆2月世界粗鋼生産、前年比微増

世界鉄鋼協会（WSA）がとりまとめた2月の世界（65カ国）粗鋼生産量は、前年同月比0.6%増の1億2,499万トンとなった。中国が同0.4%増と微増に止まったほか、米国（1.7%減）、インド（3.2%減）、ロシア（3.1%減）などがマイナスとなったため、小幅な増加に止まった。前月比では日数が少なかったこともあり、8.6%減となった。2月の65カ国の操業率は77.6%で、前年同月比2.0ポイント低下し、前月比では0.7ポイント上昇した。2月の65カ国の日産量は前月比1.2%増と2カ月連続の増となった。

中国の日産量は前月並み、中国以外は2.5%増と2カ月連続の増となった。新興国の日産量をみると、韓国が前月比3.0%減と3カ月ぶりに減少した。インドは微減で4カ月ぶりの減少となり、ブラジルは5.5%増と2カ月連続で上伸した。先進国では、EU27が前月比5.8%増と2カ月連続で増加し、北米は0.8%増と2カ月連続で増加したほか、日本は0.6%減と2カ月ぶりに減少した。1月、2月の65カ国の粗鋼生産累計は2億6,169万トンと前年同期比1.6%の増加となった。なお、政治混乱が生じているウクライナの2月の粗鋼生産量は236万トンと、前年同月比10.7%減、前月比6.3%減とともに大きく減少した。□